

横浜市感染症発生動向調査報告(令和3年4月)

《今月のトピックス》

- 新型コロナウイルス感染症の報告数が増加する傾向にあります。
- 梅毒の報告が続いています。

◇ 全数把握の対象

〈4月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	4件
レジオネラ症	1件	梅毒	11件
ウイルス性肝炎	1件	播種性クリプトコックス症	1件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1件	破傷風	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件	百日咳	1件
後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件	-	-

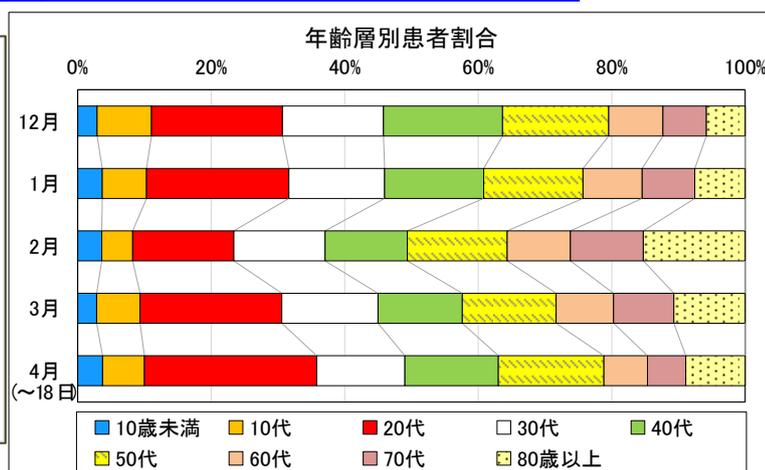
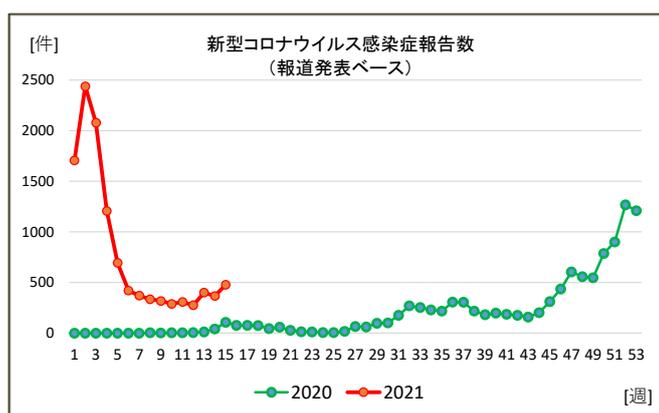
- 腸管出血性大腸菌感染症: O157が2件(うち1件が無症状病原体保有者)、O103が1件(無症状病原体保有者)報告されました。
- レジオネラ症: 肺炎型1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- ウイルス性肝炎: B型肝炎の報告が1件ありました。ワクチン接種歴無で、性的接触(同性間、異性間)による感染が推定されています。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 1件の報告がありました。感染経路等不明です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: A群1件の報告がありました。創傷感染が推定されています。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSが1件、その他が1件の報告がありました。いずれも男性で、同性間性的接触による感染が推定されています。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴4回)、70歳代の報告が3件(ワクチン接種歴無が1件、不明が2件)ありました。
- 梅毒: 無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期1件、早期顕症梅毒Ⅱ期7件の報告がありました。男性5件、女性6件で、推定感染経路は、性的接触8件(異性間7件、同性間1件)、不明3件でした。
- 播種性クリプトコックス症: 免疫不全によるものと推定される30歳代の報告が1件ありました。
- 破傷風: 60歳代の報告が1件(ワクチン接種歴無)ありました。針等の鋭利なものの刺入による感染が推定されています。
- 百日咳: 10歳代の報告が1件(ワクチン接種歴4回)ありました。

◇ 新型コロナウイルス感染症

第12週～第15週に横浜市から報道発表のありました症例は1,522件でした。

◆ 横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

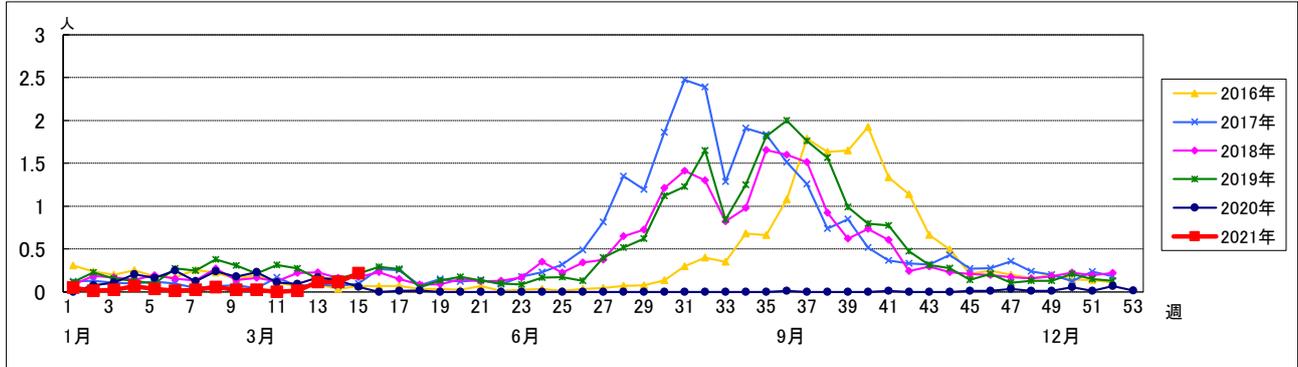
<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryu/yobosesshu/kansensho/coronavirus/corona-data.html>



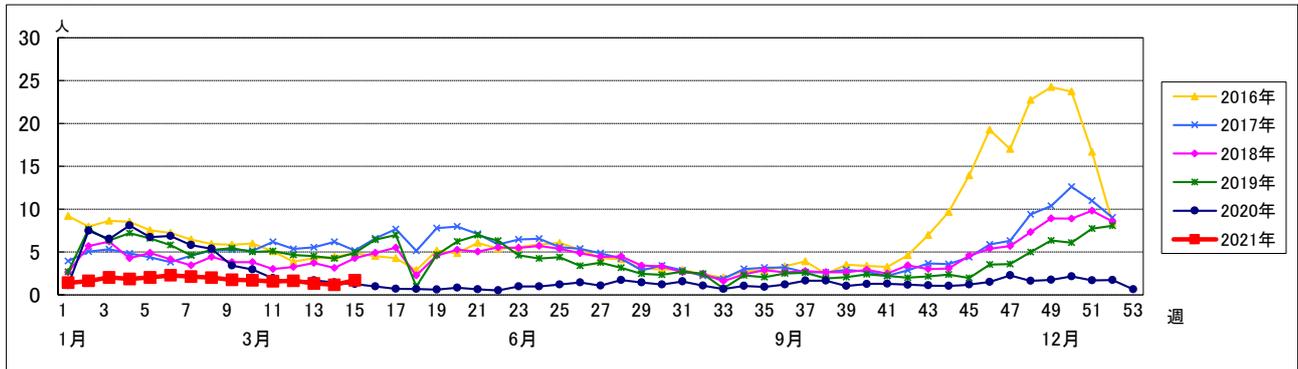
◇ 定点把握の対象:

報告週対応表	
第12週	3月22日～3月28日
第13週	3月29日～4月4日
第14週	4月5日～4月11日
第15週	4月12日～4月18日

1 RSウイルス感染症: 例年より低めの報告数で推移していましたが、第15週の定点あたりの報告数は0.22です。



2 感染性胃腸炎: 例年より低めの報告数で推移しています。第15週の定点あたりの報告数は1.69です。



3 性感染症(3月)

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:32件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:6件	女性:5件
尖圭コンジローマ	男性:3件	女性:6件	淋菌感染症	男性:17件	女性:1件

4 基幹定点週報

	第12週	第13週	第14週	第15週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.00	0.00

5 基幹定点月報(3月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

4月期(2021年第12週～第15週)に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点28件、内科定点1件、基幹定点3件、定点外医療機関からは1件でした。

5月7日現在、表に示したヘルペスウイルス1型分離1株とライノウイルス遺伝子1件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2021年第12週～第15週)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
ヘルペスウイルス1型	1 -	
ライノウイルス		- 1
合計	1 -	- 1

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

4月期(2021年第12週～第15週)の「菌株同定」依頼は、基幹定点からカルバペネム耐性腸内細菌科細菌2件、侵襲性肺炎球菌1件、大腸菌1件、非定点からバンコマイシン耐性腸球菌1件、同定依頼2件の検査依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、劇症型溶血性レンサ球菌7件の依頼がありました。

「分離同定」の検査依頼はありませんでした。小児科定点からは溶血性レンサ球菌2件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2021年第12週～第15週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)
基幹定点	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 23A型 (1)
医療機関	大腸菌	1	<i>Escherichia coli</i> O15 (1)
	バンコマイシン耐性腸球菌	1	<i>Enterococcus faecium vanA</i> (1)
非定点	同定依頼	2	<i>Citrobacter freundii</i> complex (2)
	腸管出血性大腸菌	3	腸管出血性大腸菌O157 : H- VT1 VT2 (2)、 腸管出血性大腸菌O91 : H- VT1 VT2 (1)
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter cloacae</i> complex (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌	7	A群溶血性レンサ球菌 Tut (1)、 A群溶血性レンサ球菌 T14/49型 (3)、 B群溶血性レンサ球菌 I b型 (3)
小児サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	溶血性レンサ球菌	2	不検出 (2)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】